

神奈川県士会の皆さま、はじめまして。川崎市在住(自宅会員)の杉山 さおりです。妊娠・出産・育児に伴い、離職して10年が経ちました。昨年度2月から3月にかけて、会員ライフサポート部の復職支援研修を受けさせて頂きましたのでご報告致します。

1. 参加動機

昨年9月、福岡県士会から転入してきた際に県士会ニュースと一緒に復職支援研修の案内が送られてきました。

以前、会員ライフサポート部の前身にあたる「女性支援部会」の時に、交流会や関東ブロックの研修会でのシンポジウムなどに参加したことがありました。そのため5年ぶりに福岡から川崎に戻り、活動を継続されていることを知って大変嬉しく思うのと同時に、機会があったら研修に参加したいと思っていました。

10年前、第1子の妊娠中に過労で肺炎を起こして入院したのを機に、当時勤めていた診療所兼訪問看護ステーションを退職しました。その3年後の第2子を出産までに夫を説得し、第2子の産後1年で、在宅支援センターで月2回のパート勤務に就きました。その時期、子ども達は、幼稚園と一時保育を利用していました。その翌年、会員ライフサポート部の萩原先生のご紹介で、週1回の訪問リハビリのパートの仕事に就きました。しかし、その直後に夫の福岡への転勤が決まり、福岡での5年間は仕事に就かずにおすごしました。仕事に就かなかった理由は、環境に慣れること、一時保育の制度がなかったこと、また短期間でパート勤務をした際に、自信をなくしていたことがありました。

しかし、昨年11月の「PT ママの会」の勉強会で、PT協会の半田会長から「訪問リハビリは、時間に融通も利くため、今後女性が働きやすい活躍できる職場だろう」とのお話を伺い、もう一度訪問リハビリについて、復帰の可能性はあるかどうか？確かめてみたいという思いが強くなり、研修に申し込むことにしました。

2. 研修まで

研修先は、会員ライフサポート部から提示のあった、川崎市麻生区にある『有限会社 訪問看護リハビリテーションネットワーク』(以下『訪問看護リハ・ネットワーク』)にお願いしました。

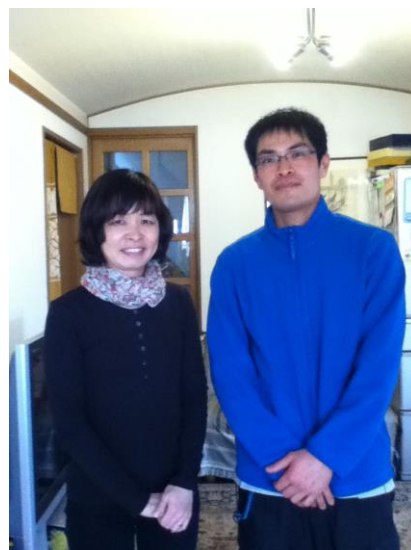
訪問看護リハ・ネットワークは、PT6名、看護師3名、事務員2名の会社で、小田急線の百合ヶ丘駅前のマンションの1室に事務所を構えています。

研修を担当して下さったのは、齋藤 崇志先生。会社設立当初からのスタッフで、訪問リハの書籍などの執筆もされている訪問リハのスペシャリストです。

訪問看護・リハネットワークも復職支援研修の受け入れは初めてのことで、事前にメールで何度かやりとりさせて頂き、研修内容等についても希望を聞いて頂きました。

以前パートで訪問リハに復帰した際、関わる疾患が多岐に渡り、一人職場で対応することの難しさを感じていたため、出来るだけ多くの疾患を経験させて頂きたいことや、知識面のフィードバックもお願いしたいことをお伝えしました。

通常は、バイクで訪問されていますが、私自身がバイクの運転に不安があったため、自家用車で同行させて頂きました。



本人 齋藤崇志先生

(研修最終日の最後の訪問先で、患者様の奥様に撮影していただきました。)

3. 研修内容

	2/22(金)	3/8(金)	3/11(月)	3/12(火)	3/13(水)
9:00	8:15～事前打合せ 8:45～訪問同行		T 様 (同行スタッフ齋藤)	O 様 (同行スタッフ笠原)	
10:00	10:00～打合せ			N 様 (同行スタッフ笠原)	
11:00			M 様 (同行スタッフ齋藤)		11:15～W 様 (同行スタッフ齋藤)
12:00					12:30～S 様 (同行スタッフ齋藤)
13:00		M 様 (同行スタッフ齋藤)		N 様 (同行スタッフ齋藤)	
14:00		T 様 (同行スタッフ齋藤)			
集合 時間 (場所)	8:15(事務所)	12:45 (事務所前)	8:40 (事務所前)	8:40 (事務所前)	11:15 (W 様宅前)
解散 時間 (場所)		15:15 (T 様宅で現地 解散)	12:00 (M 様宅で現地 解散)	14:00 (N 様宅で現地 解散)	13:45 (S 様宅で現地 解散)

対象疾患：脳血管疾患(PD4件、脳幹梗塞、不全麻痺)整形疾患2件、肺気腫1件、心不全1件

フィードバック:訪問リハ総論、RAの治療薬について、体力測定について(文献の紹介)

訪問の都度、訪問先の状況についてのディスカッション

4. 研修を終えて

常勤勤務から10年、パート勤務から5年のブランクがある中、復職を考える際いくつかのハードルがありますが、研修に参加したことで以下の点について成果がありました。

1) 復職の具体的なイメージを持つことができた

日常生活の中では、復職を望んでいても自分の中での想像の域を脱することができないため、現実的な復職への道筋を考えにくい状況に置かれます。しかし研修に参加し、実際に臨床の現場に立ったことで、復職を考える際に自分自身に何ができるか？復職するために何が必要か？ということをも具体的にイメージし、考えることが出来るようになりました。

2) 最新の知識を得ることができた

訪問時に疑問に思ったことを、帰宅後簡単な報告書にまとめ、メールで送らせていただきました。研修終了までに、RAの治療薬や訪問時に行える高齢者の体力評価の方法についての情報を得ることができました。離職中に

気になる講習会には参加していたものの、実際の臨床現場での変化を生活の中で掴むのは難しく、医療が日進月歩であるということに改めて感じ、復職に向けて新しい情報を入手する必要性も感じました。

3) 訪問リハへ復職するための課題がわかった

以前常勤で訪問リハに従事していた時には、患者様を複数のスタッフで担当する方法を取っていたため、新卒で行政に勤務し臨床の技術・知識の積み上げが十分に出来なかった私でも、周囲のスタッフと情報交換をすることで訪問リハの業務を実施することができていました。しかしパートで勤務した際、1人職場で様々な疾患を担当するに当たって技術・知識の不足を感じ、その後の復職に自信をなくしたことも復職から遠ざかった理由の一つになっていました。

そして今回の研修に参加して、10年前は介護保険制度が始まったばかりで、訪問リハも、まだ定着していませんでしたが、需要が増え、入院日数も短縮されて早期に在宅生活に戻られるケースが増えているという現状がわか

りました。また、訪問でのパート勤務は大きな法人の訪問看護ステーションなどに限られ、研修先の会社ではパートの採用はしていないとの話を直接伺い、パートで訪問リハに関わることで自らの難しさがあることを知りました。

訪問リハへの復職を考える際には、技術・知識の再構築が必要であり、バックアップ体制を取っていただける職場やパート勤務の実績のある訪問看護ステーション等を探すなど、勤務先の条件を確認していく必要があることがわかりました。

4) 家族の協力体制を築けた

復職に向けてのもう一つのハードルは、家族の理解と協力を得ることです。これまでは夫の仕事が忙しいため、自分1人で抱えなければいけないと思い込み、そのハードルを越えられずにいましたが、今回研修に参加するに当たって事前に話し合いをし、早朝に外出する際に協力が必要なことを伝え、夫にも子ども達にも協力してもらうことができました。

これまで家にずっといた母・妻が外へ出て働くということが、家族の生活にどのように影響するのか？ということを経験し、家族も実体験することが出来たことは、復職に向けて協力体制を築くのに役立ちました。

5. まとめ

5日間に渡って研修に参加させて頂き、復職に向けての課題の整理ができました。

訪問リハは、私が理学療法士になりたいと思い始めた時から目指していた職域であるため、出来ることなら訪問リハでの復職を目指したいと、この研修を通して思いを強くしました。

10年間専業主婦の生活を続ける中で、母親が家にいるメリットも感じているため、すぐにフルタイムの常勤勤務への復職は考えにくい状況です。しかし訪問リハのパート勤務という形が実現可能かどうか？自分自身が訪問リハに復職することが可能かどうか？また長い目で見た時に訪問リハの必要性が今後高まることが想定される中、女性が活躍できる職域になり得るかどうか？今後も検討していきたいと思います。

また、この10年間、生活者として医療やリハビリテーションの世界を外側から見て感じたこともあり、今後の臨床に活かして行けたらと思っています。

最後になりましたが、研修を快く引き受け丁寧にご対応いただきました(有)訪問看護リハビリテーションネットワークの大森先生、齋藤先生をはじめスタッフの皆様と、この機会を提供して下さいました会員ライフサポート部の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

会員ライフサポート部からのお知らせ

■今年度も研修生募集しています！

- ① 平成25年度復職支援実務研修・・・詳しくは [p.10](#) の求人欄をご覧ください
- ② 託児室付研修会&交流会・・・詳しくは [p.11](#) をご覧ください

■会員ライフサポート部部員募集

一緒に活動して下さる方大募集。年数回、神奈川県理学療法士会事務所で集まって活動しています。また、会議には参加できないけれど、ご意見、ご要望がある、メールを通して活動に参加したい方(メールサポートメンバー)も随時募集しています。

連絡先：lifesupport@pt-kanagawa.or.jp(会員ライフサポート部 寺尾)